

励ましと助け

シリーズ～続 福音の力～

2021/10/24

先週のおさらい

- 覚悟してエルサレムに戻ってきたパウロ
 - 第三宣教旅行の帰路、何度も警告を受ける
- エルサレムで聞かされた意外な悲しい噂
 - パウロが、すべてのユダヤ人に律法から離れるよう教えている
- 長老の勧めに従い神殿で儀礼を行うが、そこで騒ぎになる
 - 「アジア州から来たユダヤ人たち」がパウロを見つけ、叫びだし、捕らえて神殿から引きずり出した
- 証しをするパウロ
 - 駆けつけた千人隊長によって鎖に繋がれたが、集まった人たちに**自らの改心の証しを伝えた！**

使徒言行録 22:30～23:11

翌日、千人隊長は、なぜパウロがユダヤ人から訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を外した。そして、祭司長たちと最高法院全体の召集を命じ、パウロを連れ出して彼らの前に立たせた。そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」すると、大祭司アナニアは、パウロの近くに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。パウロは大祭司に向かって言った。「白く塗った壁よ、神があなたをお打ちになる。あなたは、律法に従ってわたしを裁くためにそこに座っていながら、律法に背いて、わたしを打て、と命令するのですか。」

近くに立っていた者たちが、「神の大祭司をののしる気か」と言った。パウロは言った。「兄弟たち、その人が大祭司だとは知りませんでした。確かに『あなたの民の指導者を悪く言うな』と書かれています。」パウロは、議員の一部がサドカイ派、一部がファリサイ派であることを知って、議場で声を高めて言った。「兄弟たち、わたしは生まれながらのファリサイ派です。死者が復活するという望みを抱いていることで、わたしは裁判にかけられているのです。」パウロがこう言ったので、ファリサイ派とサドカイ派との間に論争が生じ、最高法院は分裂した。サドカイ派は復活も天使も霊もないと言い、ファリサイ派はこのいずれをも認めているからである。そこで、騒ぎは大きくなった。

ファリサイ派の数人の律法学者が立ち上がって激しく論じ、「この人には何の悪い点も見いだせない。霊か天使かが彼に話しかけたのだろうか」と言った。こうして、論争が激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと心配し、兵士たちに、下りて行って人々の中からパウロを力づくで助け出し、兵營に連れて行くように命じた。

その夜、主はパウロのそばに立って言われた。「**勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証ししたように、ローマでも証しをしなければならない。**」

最高法院でのパウロ

- 千人隊長の命により最高法院が招集される
 - パウロは何もしなかったが機会が与えられた
- 毅然として語り始めるパウロ
 - 「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」
 - 大祭司がパウロの口を打てと命じる
- 大祭司への痛烈な批判
 - 「**白く塗った壁**よ、神があなたをお打ちになる。あなたは、律法に従ってわたしを裁くためにそこに座っているながら、律法に背いて、わたしを打て、と命令するのですか。」

最高法院でのパウロ

➤ 議場に放った一言

- 「兄弟たち、わたしは生まれながらのファリサイ派です。死者が復活するという望みを抱いていることで、わたしは裁判にかけられているのです。」

➤ サドカイ派とファリサイ派の論争を狙った？

- 「サドカイ派は復活も天使も霊もないと言い、ファリサイ派はこのいずれをも認めているからである。」

➤ 予想外の展開で証言中止

- 「論争が激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと心配し、兵士たちに、…兵營に連れて行くように命じた。」

イエス様からの励まし

- その夜、兵營で主がパウロに語られた
 - 「その夜、主はパウロのそばに立って言われた。『勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならない。』」
- パウロが感じていた孤独と不安
 - 最高法院では臆することなく語ったパウロだったが
 - 兵營で一人になり、孤独と不安を感じていたのか

使徒言行録23章12～25節

夜が明けると、ユダヤ人たちは陰謀をたくらみ、パウロを殺すまでは飲み食いしないという誓いを立てた。このたくらみに加わった者は、四十人以上もいた。…しかし、この陰謀をパウロの姉妹の子が聞き込み、兵營の中に入って来て、パウロに知らせた。…千人隊長は、若者の手を取って人のいない所へ行き、「知らせたいこととは何か」と尋ねた。若者は言った。「ユダヤ人たちは、パウロのことをもっと詳しく調べるといふ口実で、明日パウロを最高法院に連れて来るようにと、

あなたに願ひ出ることによめています。どうか、彼らの言ひなりにならないでください。彼らのうち四十人以上が、パウロを殺すまでは飲み食ひしないと誓ひ、陰謀をたくらんでいるのです。そして、今その手はずを整えて、御承諾を待っているのです。」…千人隊長は百人隊長二人を呼び、「今夜九時カイサリアへ出発できるように、歩兵二百名、騎兵七十名、補助兵二百名を準備せよ」と言った。また、馬を用意し、パウロを乗せて、総督フェリクスのもとへ無事に護送するように命じ、次のような内容の手紙を書いた。

備えられた助け

- パウロを殺そうとする陰謀
 - 「四十人以上が、パウロを殺すまでは飲み食いしないと誓い、陰謀をたくらんでいる」
- **パウロの姉妹の子**がこの陰謀を知った
 - パウロの甥がエルサレムにいた！
- 甥が兵營のパウロに知らせた
 - パウロに面会できた
- 甥は千人隊長に陰謀のことを告げた
 - 千人隊長は厳重な護衛をつけてカイサリアの総督のもとへ送ることを決めた

励ましと助け

- イエス様からの直接の**励まし**
 - 「主はパウロのそばに立って」>主は共におられる
 - 「勇気を出せ」>主の働きを実行するために
 - 「ローマでも証しをしなければならない。」>向かうべきゴールを示された
- 思わぬ所から与えられる**助け**
 - パウロの甥がエルサレムにいて陰謀を聞きつけた
 - 兵営にいるパウロに知らせることが出来た
 - ローマ兵に守られてカイサリアに向かう

励ましと助け

➤ イエス様からの直接の励まし

- 「
- 神はわたしたちの避け
- どころ、わたしたちの砦。
- 苦難のとき、必ずそこに
- いまして助けくださる。
- (詩編46:2)
- ロ

られる

かう

けた